

母親集団活動における一考察 — 集団活動の意義について —
 東京家政学院大家政 鈴木百合子

目的 就園前の2〜3才児を持つ母親が、母親グループ活動に参加し、子育てに関する課題をどのように成立させ発展させていくかを課題解決の方法から明らかにし、子育て期における集団活動の意義を考察する。

方法 東京家政学院大学児童学研究室で実施している母親グループ活動(母子グループ活動も含む)の実践結果を分析し考察する。1989年4月〜1990年1月。参加母親12名。

結果 1. 集団活動参加の動機 ①同年令の子どもと遊ばせたい ②幼稚園入園の準備 ③子育ての情報交換。2. 集団活動の形態・内容 ①母子合同活動(母子分化への活動、母子共通体験活動) ②母子分化活動(母親集団活動—話し合い、心理劇、製作、劇の準備)。3. 子育てに関する課題 ①日常生活における親子、きょうだい関係、地域の子ども達へのかかわり方 ②発達課題へのかかわり方 ③幼児グループ活動での子どもへのかかわり方。4. 課題解決の方法 ①指導者、他の母親、子どものかかわり方を観察する(参加観察) ②子育てについて話し合う、聞く(話し合い、指導者の助言) ③課題解決場面に直面してふるまう(心理劇、危機的場面) ④集団活動の発展に必要な役割を取ってふるまう(集団運営に関する役割、母親集団としての役割)。5. 母親集団活動の意義 ①子育てに関する知識を書物などから間接的に得るだけでなく、今、ここで直接的に行うを通して学びあうことができ、日常生活に生かすことができる。②「共に育つ」子育ての基本原則、実践力(関係的存在としての人間の在り方、関係を把握する認識力、関係を発展させるかかわり方)を養成することができる。 研究協力者(吉川、小西、大澤)